

History 十大弟子の手によって 教えは受け継がれ、広まってゆく

- 1 舍利弗 しやりほつ サーリプッタ
出家前から学徳に優れ、「知恵第一」といわれる。目犍連とともに出家し、仏弟子になる。
- 2 目犍連 もくけんれん モッガラーナ
舍利弗とは幼なじみで、母親を餓鬼道の苦しみから救ったことから死者を救済する「お盆（盂蘭盆会）」がはじまったといわれる。「神通第一」と称された。
- 3 摩訶迦葉 まかかしょう マハーカッサパ
釈迦入滅後、教えの結集で中心的な役割を果たした。「蛇陀行」（衣食住に執着しない厳しい修行）をし、「頭陀第一」と称された。
- 4 阿那律 あなりつ アヌルッタ
釈迦の前では決して眠らない不眠の行を行ったため失明する。かわりに天眼（知慧の眼）を得たので「天眼第一」と称された。釈迦の従兄ともいわれる。
- 5 須菩提 しゅぼだい スプーティ
ものごとに対する執着、心の争いがないことから「無諍第一」とされ、また、「空」に精通していたことから「解空第一」と称された。
- 6 富楼那 ふるな プナ
釈迦の教えを体得することが第一で、「富楼那の弁」という言葉も生まれたほど、わかりやすく伝えることができたため、「説法第一」と称された。
- 7 迦旃延 かせんねん カッチャーヤナ
他宗教との対論を担当したり、王族に対して平等を説いた。仏典の中で主として論理的で哲学的論議を多くしていることから「論議第一」と称された。
- 8 優波離 うぱり ウパーリ
釈迦が定めた戒律をもっともよく守ったことから、「戒律第一」と称された。もとは宮廷につかえる理髪師で、階級を厭わないブッダの信頼を得た。

9 羅喉羅 らごら ラーフラ

釈迦の実子で、戒律に対してもっとも精進し、自分をひときわ律し戒律を守ったことから「密行第一」と称された。

10 阿難陀 あなんだ アーナンダ

約 25 年の長きにわたって、釈迦の身の周りの世話をし、釈迦の説法をもっとも身近で聞き記憶していたことから「多聞第一」と称された。



※ 釈迦入滅後の仏教の展開

釈迦入滅 → 十大弟子によって教を残す . . . 第一回結集

インド各地に広まる → 根本分裂 → 上座部仏教 大乘仏教 2つの流れ

: 上座部仏教 (小乗仏教)

出家修行をする。現世で悟りを開いた者のみ救われる。

東南アジアに広がる

: 大乘仏教

出家をしなくとも在家信者でもよい。衆生の救済を主とする。

東アジア全域に広がる。

: 日本に伝来したのは、大乘仏教である。中国、朝鮮半島を經由して6世紀(538年、もしくは552年と言われている)に伝わった。

なお、仏教はユダヤ教のヘブライ語聖書や、イスラム教のクルアーンのように、単一の聖典が存在しない。弟子たちによって編纂された経典は、釈迦の教えに誰もが触れることができるようになった点では大きな意味があった。しかし、種類が多く、成立年もそれぞれ異なるため、どれを選びとるかによって宗派が細かく分かれることになった。